

# 長野県革新懇ニュース

2023年9月号  
発行日9月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 00510-3-15971

289

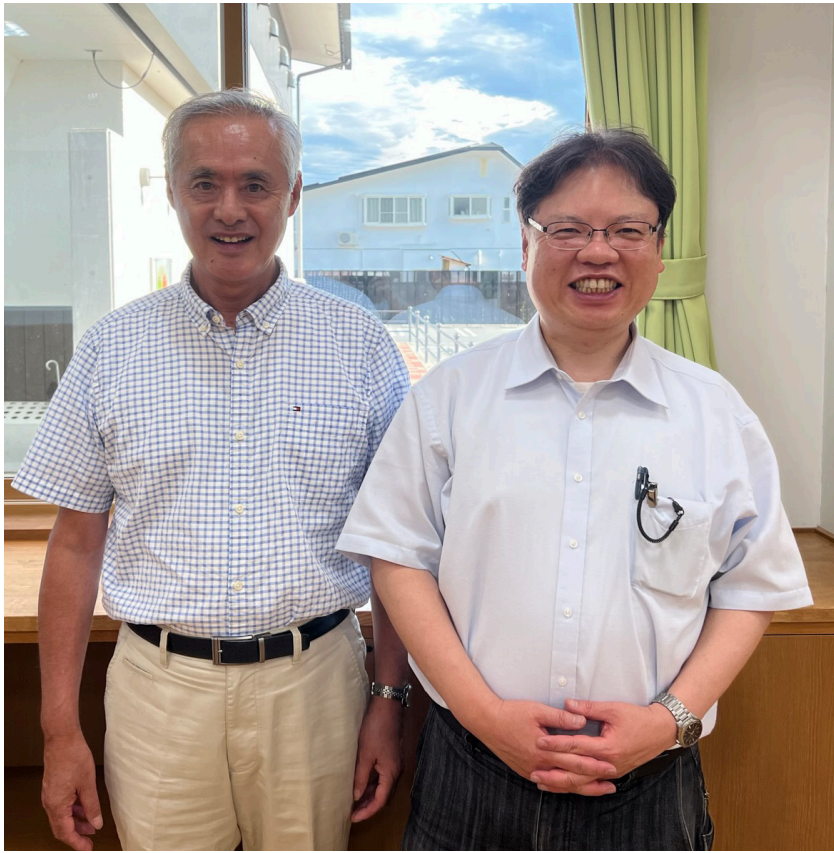
発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 京谷栄二さん・田中法博さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」関秀雄さん
- 3面 マイナンバー制度は抜本的に見直すべき、10月実施はインボイスではなく消費税5%への引き下げを、読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「見学時間」の話 窪島誠一郎さん  
戦争を語り継ぐ 北原高子さん  
映画評論『怪物』 内山到さん

長野県革新懇

検索



左:キョウタニエイジ 1951年福岡県田門市生まれ、1982年慶応大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学、1987年長野大学産業社会学部専任講師、その後、カリフォルニア大学パークレー校社会学部共同研究員、産業社会学部長、環境ツーリズム学部長などに従事、社会学修士  
右:タナカノリヒコ 1969年兵庫県神戸市生まれ、2001年大阪電気通信大学情報工学専攻博士後期課程修了(博士の学位取得)、04年長野大学産業社会学部助教授、07年企業情報学部教授、その後、企業情報学部学部長などに従事、工学博士

## 長野大学の強権的・官僚的な学校運営を問う

### 大学の自治を脅かす動きの中での「地域と大学を考える会」の運動

京谷栄二さん・田中法博さん  
(長野大学名誉教授・長野大学教授)

横行する上意下達の官僚的な大学運営

Q 長野大学で起こっている問題の背景をお聞かせください

◆京谷 長野大学の前身の本州大学は1966年、旧塩田町からの補助金と地権者の用地無償提供など地域の全面的な協力と支援を得て設立されました。74年に大学名を長野大学と改称し、2017年3月まで地域に密着した私立大学として運営されてきました。同年4月から大学の設置者が上田市に変わり、公立大学法人となりました。今、長野大学で起こっている諸問題は、この公立化以降に発生した出来事です。その具体的な中身については後で触れますが、まず問題が発生している大きな背景についてお話をしたいと思います。

文部科学省が14年に大学のガバナンス改革に関する報告を出して、理事長や学長によるトップダウンの運営を行うということが明記されています。そのためには従来あったような教授会による意思決定はできるだけ縮小し民主的な仕組みを作り替えていく方向が打ち出されました。この政策のもとで、日本全体の大学運営の変質が程度の差はあれ進行しています。

#### 学長選挙手続きの恣意的な変更

Q 具体的にどのような問題が起きているのですか?

◆京谷 一つは学長選挙に関するです。去年の7月に学長候補者の選考が公示されました。この選考に向けて、長野大学に長年在籍していた私に立候補してほしいという依頼がありました。その理由は、長野大学では公立化以降、理事長・学長等による強権的な運営が強まっているので、それを民主的な方向に転換したいということでした。13人の教員が私を推薦し、昨年9月21日に立候補しました。

もう一人の候補者は上層部が推す秋田県立大学理事長兼学長の小林淳一さんで、今の長野大学の学長です。ところが、選挙戦がスタートしたにもかかわらず、10月初旬に学長選挙に関する教職員による意向投票の規程が突然に改定され、意向投票の投票権者が拡大されました。改定を行ったのは学長選挙会議という組織で、従来投票権のなかった理事長など理事会役員、市から出向してきている職員、任期付き採用の教員に拡大されました。これらの人たちの多くは上層部が推す候補に投票する可能性の高い人たちです。このような変更は前代未聞です。それに対して当然に教職員の中から異議申し立てがあり、学内のメールで配信されました。

#### 不当で唐突な処分 長野地裁に提訴

Q 田中先生の懲戒処分の理由はどのようなものですか?

◆田中 処分の理由は三つあります。いずれも19年から20年にかけての出来事で、つまり、2年から3年前のことです。一つ目は、当時の副学長が使用する教育予算について、執行の段階で学長の許可を必要とするように求めたこと、二つ目は、学部の教育用サーバーを停止したこと、三つ目は、副学長らの不正を調査するように強く学長に働きかけたというものです。なお、その当時、私は企業情報学部の学部長を務めていました。

私がそうした対応をしたことには当然に理由があったわけですが、1点目については当時、副学長であった人物が教育研究費の申請で適切な学内手続きを行っていなかった上、しかも、目的外使用していたことが明らかにされました。そのため、本来では予算を学部から要望できない状態でした。しかし、それでは学生の教育に支障が生じるので予算

に物議をかもした意向投票ですが、理事会はその後、意向投票の制度そのものを廃止しました。

私は大学を民主的な方向に切り替えたいという教職員の思いを受けて学長選挙に臨みましたが、その思いを成就することはできませんでした。しかし、大学を民主化する運動は、田中さんの訴訟をきっかけに地域の市民の中にも広がりが現在も続いています。

恐らく以上の理由を聞いて処分を妥当だと考える人は少ないでしょう。私はこのように処分を納得できないので、その不当性を明らかにするために昨年12月9日に長野地方裁判所に提訴しました。この懲戒処分に関して、いくつかの部分が直ちに違法であることが分かりました。まず減給処分が労働法令違反であることとを訴状で指摘したところ、理事会は慌てて12月16日と今年の1月16日には処分内容を訂正しました。

この懲戒処分は、学長選の意向投票の直前に発表されましたが、わざわざ数年前の出来事を蒸し返して処分するというものでした。選挙への恣意的な介入が疑われます。加えて、理事会の意に沿わない教員を見せしめにする狙いが



### コンプライアンス 違反のオンパレード

◆田中 いろいろなコンプライアンス違反があります。

例えば、公立化以降、上田労働基準監督署から合わせて5件の労働基準法違反による是正勧告を受けています。

また、大学の幹部によるハラスメント行為への告発が職員からありました。しかし、その調査の進行中に、突然規程が変更され、既存の調査委員会が解散させられ、審議が中断されるといふ事態が生じました。恣意的な対応が取られた疑念があります。

さらに、コンピュータシステムの導入に関する問題もあります。本来ならば競争入札を行って業者を選定するのが適切ですが、突如として特定の業者を随意契約で選定しました。ところが、その業者は大学内にシステムを適切に導入できない状況に陥りました。このため、単位計算が正確に行えず、履修登録や出席管理も適切に行えないという深刻な問題が生じ、大混乱が広がりました。

最初に京谷さんから、教職員を意思決定過程から排除して上層部が理事会の決定をお墨付きに独断でものごとを進めるといふ話がありました。26年に新設が予定されている理工学部について、学内では教授会を含め、まったく内容が説明されずに計画が

進められ、多くの教職員は3月中旬のメディアのニュースで初めて知るといふ理解できない事態が起こりました。

### 市民と共に処分撤回と 大学の民主化を求める

◆京谷 田中さんの訴訟がきっかけとなって、田中さんを支援するために、元教員の私と元学長の野原光さん、元副学長の長島伸一さん、そして

大学に用地を提供した村山降さんなど地域の中で大学に関心を持ってくださる方々が集まって話し合いを行いました。その中でどのように田中さんを支援していくのか、そして反民主的な方向に進んでいくのかということが検討されました。

その結果、持続的に根強い運動を地域の中に作っていくためには大学を変えることはできないという方向性と戦略が示されました。年明けから集まりを重ね、その中で「地域と大学を考える会」の運動が始まりました。複数の教員が懲戒されて現役の教職員が表立って声を上げるのはきびしい状況ですが、地域で長野大学の教育に関心を持って協力してくださる市民の方々が集まって、次第に人数を増やして活動をしてきました。

活動の初めに野原元学長と長島元副学長が理事長に公開質問状を提出しました。ところが、その回答は、「説明を行う予定はない」という、木を鼻をくくった、きわめて不

誠実な内容でした。

それに対して、この運動を多くの人たちに理解してもらい、地域から大きな声を作り出すために市民集会を開こうという企画が生まれ、6月11日に市民集会を開催するに至りました。参加者は約90名。

集会の中では、今の長野大学の異常な実態と田中さんの処分の不当性が報告され、そこで長野大学の平井理事長に対して、これまでの疑惑を持たれている事柄について公開の場で説明を求める要求を決議しました。その決議に賛同して

理専長宛に要望書を出しました。その内容は、①不明朗なお金の流れについての経過、②教員の懲戒処分について、③学長選考にかかわる経過、④理工学部の新設計画の説明を求めるというものです。

決議文の連名は当初195名、現在201名です。また、田中さんの処分の不当性を認めさせるための署名活動に取り組みことも確認しました。

その後、理事長から要望書に関する回答が7月14日に送られてきました。①については、大学予算の私的流用は事実無根であり、私たちの要求はその問題で懲戒を受けて退職した元職員に対する個人攻撃で違法行為である、②教員に対する懲戒処分については係争中なので法廷で説明をする、③については、学内の規程に基づいており、全く瑕疵はない、④理工学部の新設については、上田市と上田市議会に十分な説明を行なっているというものでした。

張を繰り返して自己を正当化したり、私たちの疑問にまともに応えるものではありません。

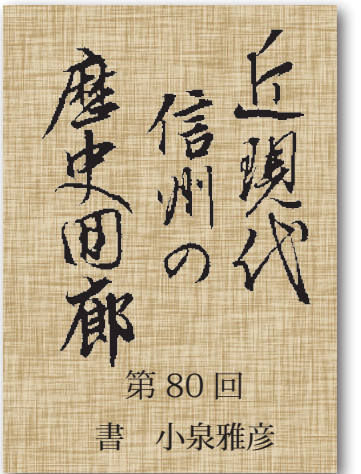
長野大学は地域の大学であり地域住民に理解されて支援されて成り立つ大学だと思えますが、今の大学の上層部にはそうした考えがあるようには思えません。

今後の対応については、市民の皆さんの参加、その輪と力を広げることが大切だと思っています。従って理事長の回答に対してどういう対応をするのかも会の中心のメンバーだけで決めるのではなくて8月26日に市民集会を開いて、理事長からの回答を検討し、これからどのように運動を進めて行けばよいか話し合った上で、再び理事長に諸問題に対する説明を求めていきたいと思えます。

長野大学は理工学部の新設を発表し順調に進んでいるように見えますが、公立化後の大学運営はこのような深刻な問題をはらんでいます。この状況を見過ごしていくと、地域に根差した大学という建学の精神は廃れ、言論の自由と教育研究の自由が脅かされて大学は空洞化してしまっています。

私たちは教職員と市民が連携して、田中さんの訴訟の全面勝利とともに、長野大学を教職員と学生が生き生きと働き・学び、地域の市民と自由に交流できる民主的で魅力ある大学に作り変えていきたいと望んでいます。ぜひ多くの皆さんにこの取り組みの意義を理解していただき、支援の輪を広げて行きたいと願っています。

私たちの要望に対する長野大学理事長の回答は、問題のすり替えだったり、従来の主



### 島崎藤村『夜明け前』と 平田国学(6)

上田小県近代史研究会 関 秀雄

#### (2) 庶民の闘いを描く

『夜明け前』には、1857(安政3)年夏に中山道筋で起きた「牛方事件(牛方騒動)」が描かれます。この事件は、中山道沿いに馬で物資を運ぶ運送業者(牛方)たちが、運んだ物資の運賃を問屋たちが上下させたり、「上前をはねる」ことに反発してストライキを起こし、問屋を交替させ、運賃を一定の基準で支払うようにさせ、労働に明け暮れる最下層の運送業者たちが団結して自分たちの要求を通すことに成功した騒動でした。



現在の木曾の樹林(赤沢休養林)

行けませぬ。そこが人々が処罰覚悟で行なったのが「背伐り」でした。

こっそり森林に入り、檜など銘木の皮をうまく剥いで材木を切り取り、皮を依然と変わらぬように被せておくやり方で、ほとんどの民がやっていたようで、時々発覚して捕まる者が出ます。福島の人と民衆の間で右往左往しつつも何とか民衆の処罰を軽くしてもらおうとして村役人が動きまわりました。半蔵の家は代々、本陣で庄屋でしたから、代官と民衆との間で苦勞しました。半蔵の父吉左衛門が「背刈り事件」で捕縛された村内の民衆が連行される姿を、幼い半蔵に見えないよう叱る場面も作中で描かれています。

の田を3町1反4畝ほど、小作地を2町2反余など合計6町2反余り所有していました。普通だと60石ほどになりませんが、瘦せた土地が多い馬籠なので、実際は40石程度でしょう。家族だけでは扱い切れず小前百姓(小作人)を十数人使っていたようで、夜明け前」の中でも「桑作」などの使用人が登場します。

その上で本陣・庄屋を代々勤めていたのですから、さぞ羽振りが良いかと思いきや、商才の無さも手伝つて次第に土地を失って行き、幕末には決して楽ではない経済力に陥っていたようです。半蔵(正樹)が16歳で寺子屋の師匠を始めたのも家計を助けるためでした。さらに明治維新を迎えて、それまで幕藩体制の下で、天下の主要街道である中山道馬籠宿の本陣として得られていた特権は、維新政府により街道の通行が完全に自由となった結果、なくなってしまうのです。

島崎家は名字帯刀を許され、名古屋城主にも目通りを許されていた家でしたが、維新の荒波の中、生真面目で学問ばかりに没頭し、人付き合いが好ましくなく、計算が得意でない(商売の才がない)正樹は、徐々に家の経済力を傾けました。もともとは彼に限ったことではなく、島崎家の当主も代々そうだったようです。作中では半蔵の母が「家を傾けたのは半蔵に才がないからだ」となじり、まだ若い半蔵に対して家督を長子に譲るよう求めます。これとは対照的に、隣家の脇本陣・大脇家は商売上手で、金貸しや酒造業で財をなし、本陣の島崎家とは対照的でした。資本主義の時代へと向かう中、その流れに上手く乗れたか否かが家の将来を分けたのでした。

その大脇家に残されていたのが通称『大黒家日記』(正確には『年内諸事日記帳』)といい、30年以上にわたり書き続けることができたことから藤村は『夜明け前』を執筆する決意を固め、詳細なメモを作成しています。

【次号に続く】



# 10月実施はインボイスでなく 消費税5%への引き下げを

## マイナンバー制度は 抜本的に見直すべき

来年秋に紙の健康保険証を廃止し、マイナンバーカード

を利用した「マイナ保険証」に一本化する法案が、与党と維新、国民民主の賛成で6月通常国会で成立しました。しかし、成立後もトラブルが相次いだことから、国民の不安がさらに広がっています。共同通信社の世論調査(7月14〜16日)では、「廃止を延期すべき」と「廃止を撤回すべき」を併せた76・6%が同制度に懸念を表明しています。県内の開業医らでつくる長

野県保険医療協会は、現行の保険証を廃止してマイナンバーカードに一本化することを含む法改正の撤回と現行保険証の存続を求める声明を発表(7月3日)しています。

また、5月25日〜6月7日に実施した会員アンケートで、オンラインで患者情報などを確認できるシステムを導入した医療機関の7割近くでトラブルを経験したとして、高齢者など情報処理に不慣れた人々にとってデジタルシステムの導入が難しい現実にも

警鐘を鳴らしています。こうした国民の不安の解消のため、政府はただちに以下の点を再検討すべきです。

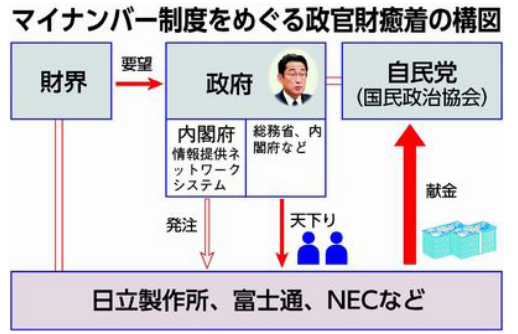
- ①健康保険証の存続の検討  
明らかになっているトラブルや不安を踏まえた政策の再評価が必要です。一本化による混乱やトラブルを考慮し、廃止を見直す姿勢が求められます。
- ②マイナ保険証の運用を一時停止し、総点検を実施

③国民の声を耳を傾ける  
政府は国民の不安や声を真摯に受け止め、政策を見直す姿勢が求められます。

医療関係者や世論調査の結果を基にした政策の再検討が必要です。

④個人情報保護の徹底、セキュリティ対策の強化  
デジタル庁が個人情報保護委員会の立入調査を受けたことは深刻な問題です。個人情報のセキュリティ対策の強化と厳格な管理体制の確立が不可欠です。

⑤マイナンバー制度の再評価  
マイナー制度全体の再評価が求められます。個人情報ビジネスや大企業の利益拡大を優先する姿勢を見直し、国民のプライバシーと権利を尊重する形で制度を再設計すべきです。



「消費税5%実現！自動車パレード」参加者

私たち消費税廃止長野連絡会はこの間、管内の長野市・上水内郡区のすべての議会へ

「インボイス実施延期を国へ求める請願」の趣旨説明を行いました。8月27日には「消費税5%実現！自動車パレード」を、更北公民館をスタートし長野駅前、篠ノ井駅前と14台を列ね壮大にアピールしました(1時間20分)。

インボイスでどれだけ地域の業者が分断され、元請と下請けの関係が悪化しているか。インボイス増税により、地域の衰退はもとより、廃業が相次げば中山間地では暮らしそのものがなくなってしまうことを中心に訴えました。

飯綱町、信濃町、小川村は議員さんたちの理解度も高く「重大問題」と捉え、実施延期の意見書を国へ提出しました。唯一、長野市議会は自公に阻まれ不採択となりました。

信濃町議会(総務産業常任委員会)では、「誰も得をしないインボイスを政府はなぜ、実施しようとしているのか疑問」と委員会発言もあり、町で起こっているインボイス問題に私も驚かされました。信濃町では、検針員のインボイスで発生する消費税分は町が負担することを決めていました。町議会議員さんも「こんなの本当におかしいです」と話されました。

逆に長野市内の免税業者さんは、市役所から10月以降はインボイスを取得しないと「仕事は回せないと思う」と露骨に言われています。対照的な二つの例ですが、どちらも自治体の判断です。これは自治体が悪いのではなく、「インボイス制度が悪い」

のです。長野市も免税業者へ仕事を依頼すれば、市の税金でインボイス増税分を負担しなければならず、信濃町は検針員のインボイス増税分を町で負担しなければ、町の職員では対応しきれないと推測します。

今まで築いてきた人間関係を悪化させ、「税の押し付け合い」を迫るのがインボイス制度です。戦後最悪の「分断装置、インボイス」は撤廃し

### 漢字パズル

左のリストにある漢字を下の空欄に当てはめて下さい。リストに残った3文字が解答です。締切9月末日。正解の方に抽選で図書券を進呈します。宛先は1面上段にある事務局連絡先まで。近況・感想・意見も添えて下さい。

1	年	2	昔	3	語	3		2	4
5		12		7	武		8	9	10
		11	6		両		6		1
13	5		地	6	真		2	3	字
16		17		14	5		14		13
18	26	7	園	18	際		19		安
		20		10	術		15	8	子
23	19	21		11			9	22	
24		23	22		熱		24		理
		10		16	交		25	16	業
27			7				27	20	

事務局 相沢道人

### 読者のこゑ

◆前号は、今井和子さんの被爆体験、6・11県民のつどい、6・25県革新懇総会(私は共に不参加)、「ウッチーのこりやあエエガ108」、そして窪島誠一郎氏の「雨よ降れ・連載61」と目を走らせた。窪島氏「孤独死」に思うの「人間は一人で生まれて一人死ぬ」に、ビビッと来た。だが、生あるうちは、より良い世界をつくらうと、他者と共に生きている。(松川町・米山義盛)

◆原水爆禁止世界大会に初めて参加して46年になりました。東京民医連の健生会に就職した年です。バザーで参加資金を募ったり、映画会をして学習したりして広島大会に参加させて頂きました。広島で原爆資料館を見ました。忘れられない光景でした。今井和子さんが幼くして体験した記事を読み私の胸も潰れる思いです。その体験を勇気を持って語り継ぎ日本が禁止条約の批准になるまでと頑張る姿に勇気を頂きました。お身体を測します。

◆大門さんの『やさしく強い経済学』を読んだものの、理解しきれないこともあり、忘れてしまった中身が6月の講演で理

◆とにかく暑い毎日が続いた。きゅうりや茄子に水をかけるのが疲れた。今年はズッキーニ、ゴーヤがでなくて(例年放つ

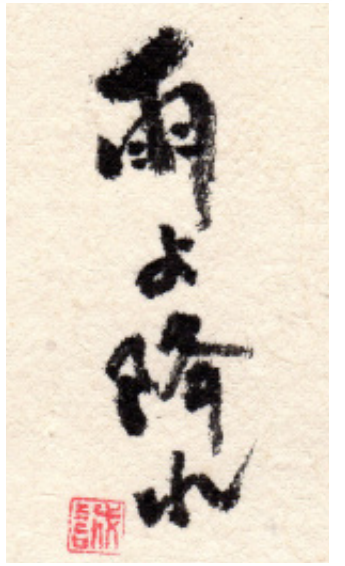
大切に、語り部を続けて、若い世代につなげてと願っています。(青木村・上原美代子)

◆革新懇ニュースをいつも楽しみにしています。まず漢字パズルを解いて脳を活性化させて、まだまだいける」と安心し、次に「雨を降れ」。肩の力が抜けます。その後は順を追って少しずつ読んで学んでいます。今井和子さんのお話を重く受け止めました。(東御市・広嶋光子)

◆外務省は7月6日、日米合同委員会での日米軍オスプレイの最低飛行高度を現行の500フィート(約150m)から200フィート(約60m)に引き下げることを合意したと発表しました。これは沖縄普天間基地所属のオスプレイが本土で訓練する際の「山岳地帯」の場合

◆とにかく暑い毎日が続いた。きゅうりや茄子に水をかけるのが疲れた。今年はズッキーニ、ゴーヤがでなくて(例年放つ





連載 62  
窪島 誠一郎  
〔「無言館」館主・作家〕

### 「見学時間」の話

このあいだ広島で開催されたG7(先進七ヶ国首脳会議)で、注目されたのが世界唯一の被爆国である日本の象徴的平和祈念施設である「原爆資料館」を、各国首脳たちがどれだけの時間をかけて見学するかということだった。ご存知の通り、広島「原爆資料館」には新館と旧館とがあって、新館である西館はCGなどのデジタル機能を駆使し、

昭和二十年八月六日、米軍戦闘機から投下された原子爆弾によって一瞬のうちに死の街と化し、二十数万人の市民の命がうばわれたヒロシマの惨状を、どちらかといえば包括的、総合的に展覧している資料館である。そして、実際に被爆した一人一人、個人個人の証言や資料にもとづき、僅か三歳で愛用の三輪車に乗ったまま絶命した幼い子の姿

や、ペロリと全身の皮膚が焼けただれた遺体の写真などを使って、きわめてリアルに原爆の残酷さと恐怖を伝えようとしているのが旧館にあたる東館である。さて、このように一般の見学者であれば最低半日は費やさなければ見学しきれない「資料館」の新館、旧館をG7の首脳らはどれだけの時間を要して「見学」したのだろうか、そこが大変関心のあるところだ。「核廃絶」だとか「核抑止」だとか念仏のように唱えているサミットの首脳たちは、実際にどれくらいの時間をかけて、「原爆」と向き合い「ヒロシマ」と向き合ったのか。そうした思いに捉われるのは、二〇一六年五月に当時のオバマ米大統領が広島を初めて訪れたときの「資料館」見学の時間が、たった十分間

があきれるほど短い人たちがいる。もちろん、なかには小さな館なのに半日以上も時間を費やして、じっくりと画学生たちの作品を鑑賞してくださる方もいるのだが、(まるでかつての国防婦人会か何かのように)団体バスで嵐のようによつてきて、たった五分か十分であつというまに立ち去るといふグループも多い。急がねばならない次の目的地があるとか、おソバ屋さん予約を入れてあるとかいった事情もあるのだろうが、あれじゃあ、戦時下にあつてひたすら絵筆を握り、画布に向かつていた若者たちの絵にこめられた「生きたい」「描きたい」という心情の半分も伝わらないだろうと思う。どうか、「資料館」「美術館」を見学するときには、もう少し時間的なゆとりをもつて――

### 怪物は私たちの心に棲んでいる



前で庇うことが出来ないでいた。放課後、湊は依里と一緒に廃車庫の電車を秘密基地にして、宿題や怪物ゲームをして仲良く遊ぶ。そこは二人だけの世界だった。湊は依里が父親に虐待されていることを知り、嵐の中、二人は秘密基地に向かう。

### 心に棲んでいる

上から見ると〇、横から見ると▽、別の横から見ると□に見えるものは何?子ども頃夢中になって読んだ「頭の体操」にこんなナゾナゾがあった。著者の多湖輝(千葉大学学教授(当時)・心理学者)が、物事にはいろいろな見方があると教えてくれたが、今の私は多面的な思考が可能かどうか疑わしい。

「A…シングルマザーの早織は、クリーニング店で働きながら一人息子の湊を一生懸命育てている。最近、湊の様子がどうも変だ。耳の怪我はどうしたと聞くと担任の保利先生にやられた、暴言も吐かれた、殴られた、給食を食べさせてもらえなかったと言った。血相を変えた早織が学校に行き、校長や教頭に会い保利との面会を求める。校長は形式的謝罪に終始、保利の心無い謝罪と要領を得ない話ばかりぶんかんぶん。しかも湊はイジメをしていると言いだす始末、早織はついに切れる。保護者会で頭を下げ続けた保利は学校を辞めることになる。ある嵐の朝、湊は突然姿を消す。B…小学校の新任教師・保利は、子どもたちに組体操を教え、自分の子どもの頃の作文を紹介し、早く一人前の教師になろうと努力を続けていた。ある日教室で湊が暴れているのを見つけ、止めた保利の手が偶然湊の耳に当たると、依里の上履きが隠され、トイレに閉じ込められ、保利は湊が依里をいじめていると思いはじめ。保利は早織に指導を問い質され、湊がいじめをしていると口走る。管理職と先輩教師から強要された保利は、保護者会で意に沿わない謝罪を行い辞職する羽目に陥る。荷物を片付ける途中で見つけた作文から、保利は湊と依里の友好関係を示すトリックに気づく。保利は早織を伴い、湊と依里を探しに嵐の山中に分け入る。C…湊は依里がクラスでいじめられていることを知るが、自分に飛び火することを恐れ、みんなの



### 写真で辿る信州と戦争41

### 戦争を語り継ぐ

営事 大松代  
理事 松代和  
法人 NPO  
北原 高子

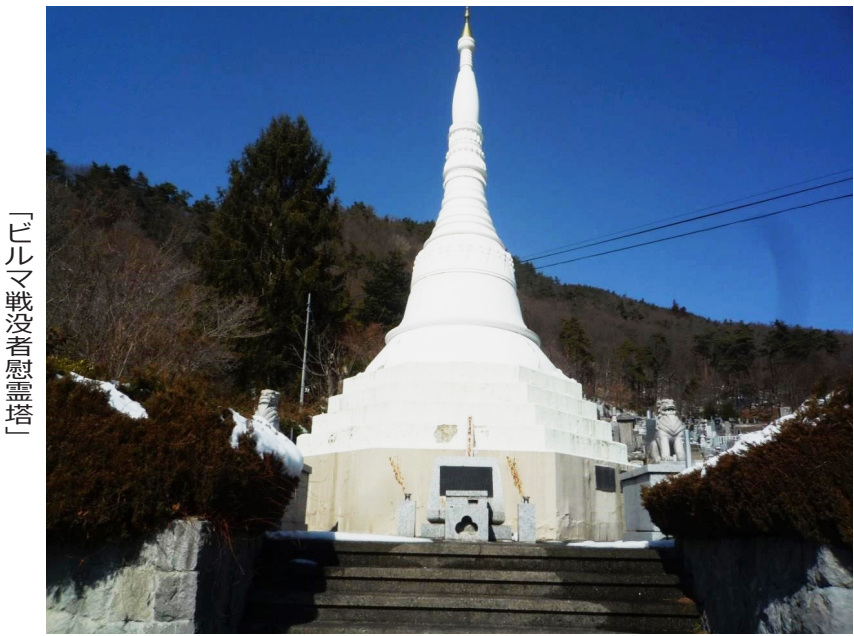
長野市善光寺の裏山、花岡霊園には、高さ111の白亜の塔が建っています。ビルマはじめ、インパール戦線での戦没者を慰霊する慰霊塔で「パゴダの塔」とも呼ばれています。

パゴダとは仏塔のことで、ミャンマー(ビルマ)のヤンゴンにあるジュエダゴンパゴダを模して1977(昭和52)年に建立されました。「慰霊塔建設趣意」には、「……晴れ間もな

く降り続くビルマの雨季のものです。そして蔓延する悪疫のすさまじさ、そうした悪条件の下で第二次大戦中最も凄惨な戦闘といわれたインパール戦線、また北ビルマ戦線などビルマ全域に亘り幾多の激戦が展開された。ある者は密林の中に、ある者は重畳たるアラカンの山中に、イラワジ河畔等に、空・陸からの猛攻を受けつつ、言語に絶する飢渴と悪疫にさいなまれながら次々と倒れていった戦友

の面影は30余年を経た今日なお私達のまぶたに鮮やかに浮かび上がってくる。(中略) 大戦下 同国に骨を埋めた犠牲者総ての人々の御霊を等しく弔うべく平和の塔としてビルマ仏教の象徴であるパゴダをこの地に建立し、もつて御霊と共に真の世界平和を招来するための祈願をこめたいと思う次第である。」と書かれています。

そしてここに慰霊されているビルマ派遣部隊名等が書かれています。その中の「山砲第三十三聯隊」というのが、前号で紹介した友田浩さんが率いた200名の部隊です。もちろん、友田さんもこの慰霊碑の建立に尽力されました。



「ビルマ戦没者慰霊塔」

ながら次々と倒れていった戦友の面影は30余年を経た今日なお私達のまぶたに鮮やかに浮かび上がってくる。(中略) 大戦下 同国に骨を埋めた犠牲者総ての人々の御霊を等しく弔うべく平和の塔としてビルマ仏教の象徴であるパゴダをこの地に建立し、もつて御霊と共に真の世界平和を招来するための祈願をこめたいと思う次第である。」と書かれています。

そしてここに慰霊されているビルマ派遣部隊名等が書かれています。その中の「山砲第三十三聯隊」というのが、前号で紹介した友田浩さんが率いた200名の部隊です。もちろん、友田さんもこの慰霊碑の建立に尽力されました。



「万引き家族」 [花実みたいな恋をした]  
監督: 是枝裕和 × 脚本: 坂元裕二  
音楽: 坂本龍一